

早稲田社会学会ニュース

第57号

2021年 4月28日発行

早稲田社会学会事務
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部 社会学研究室内
Tel: 03-5286-3742
E-mail: socio-office@list.waseda.jp
URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第73回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告の募集
4. 『社会学年誌』第63号投稿の募集
5. 2021年度研究助成の募集
6. 第3回早稲田社会学会・三田社会学会合同研究例会（第42回早稲田社会学会研究例会）報告、および第43回例会について
7. 入退会者のお知らせ
8. 学会費納入のお願い
9. 事務局よりお願い

1. 第73回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会は、2021年7月3日（土）に、オンラインにて開催されます。シンポジウムのテーマは「東日本大震災後10年間の被災地、住民と社会学：住まいと生活を中心に」です。詳細につきましては、「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、学会HP上にてお知らせする予定です。ご参加方法等、詳細につきましては、追ってご連絡いたします。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、「大会一般報告の募集」をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

日時： 2021年7月3日（土）13:30-17:00

会場： オンライン開催

参加費： 無料

テーマ： 東日本大震災後10年間の被災地、住民と社会学：住まいと生活を中心に
(以下敬称略)

報告者： 野坂真（早稲田大学）「岩手県における津波被災者の復興感とその背景にある生活状況の経年変化—大槌町における10年間の応急仮設住宅・災害公営住宅全入居者への継続調査の結果を中心に—」

内田龍史（関西大学）「宮城県における災害公営住宅供給と被災住民の生活の回復」

川副早央里（東洋大学）「原発事故被災地域における住宅と生活の再建」

討論者： 秋田典子（千葉大学）・祐成保志（東京大学）

司会者： 石倉義博（早稲田大学）

趣旨説明

2021年3月11日で東日本大震災から10年を迎えた。東日本大震災では、津波の被害が広範囲に及んだことから、被害状況自体が多様であったと同時に、その後の復興事業によっても、被災地の状況の差異はさらに大きなものになっていった。加えて、福島第一原子力発電所の事故により放射能汚染が生じたことも、東日本大震災の被害と、そこからの復旧・復興のあり方を「被災地」として一律に論じることを困難にしていた。

津波災害や原子力災害では、土地自体にダメージが及ぶこと、また防災のための基盤整備も必要となるため、被災したまちや住まいの復旧・復興プロセスは長期化する。時間の経過とともに、被災地とその「外」との間には、震災への関心において大きな落差が生じていった。しかし、関心の落差が広がっていくなかで、被災地では徐々に復興事業が進展し、災害復興公営住宅や持家への移行も徐々に進んでいった。

地域の課題や個人の抱える問題が時間の経過、復興の段階ごとに変化していく一方で、関心の落差のもとでは、個々の地域、住民に関する情報や知識は断片的で、特定の地域や特定の時期を切り取ったものにとどまりやすい。そのため、復興事業の進展や恒久住宅への移行、地域、住民の抱える多様な問題など、この10年間の変化と現状が、研究者を含め、十分に「外」に伝わっているとはいいがたい状況にある。

復興事業に直接的に関与することが少なく、「役に立たない」と見られがちな社会学ではあるが、他方で、「フィールド」に通い続ける期間は相対的に長い。本シンポジウムは、この10年間、それぞれの「フィールド」に継続的に関わってきた研究者3名をお招きして、それぞれが見てきた被災地、住民のすがたとその変化、とりわけ住民の住まいと生活を建てなおす過程について、自身の10年間とあわせてご報告いただく。

いまだ復興の途上にある地域や住民にとって、「10年」は節目としての意味は薄いかもしれないが、研究者を含めた「外」の人間が、関心の落差を埋める手がかりとなるようなシンポジウムとしたい。

（早稲田大学 石倉義博・明星大学 本多真隆）

3. 大会一般報告の募集

大会午前中（10:00-12:00予定）の一般報告を希望される方は、以下の項目を明記の上、事務局宛にE-mailにてお申し込みください。件名を、「大会一般報告申し込み」として下さい。

必要事項

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先（郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス）
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

送付先： socio-office@list.waseda.jp

締切： 2021年5月17日（月）12:00AM

※ 『社会学年誌』投稿とは締切が異なりますのでご注意ください。

現在早稲田社会学会会員でない方で、報告をご希望の方は、上記の必要事項とあわせて入会申込書をお送りください（なお、本年度についてはPDFなどの形でE-mailにてご提出下さい。当面、推薦人の署名捺印は不要とします）。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会ウェブサイトの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

4. 『社会学年誌』第63号投稿の募集

本年度の『社会学年誌』に投稿を申し込む方は、以下の項目を事務局宛にE-mailにてお送りください。件名を「『社会学年誌』投稿申し込み」としてください。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

『社会学年誌』投稿：申し込み締め切りは、6月30日(水)23:59です。

『社会学年誌』原稿の提出締め切りは、8月末日です（なお本年度に関しても、昨年度と同様に紙媒体の原稿の郵送は不要です。上記事務局のE-mailに添付ファイルとしてお送り下さい）。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退される場合は、8月15日までにその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号をご参照ください。

現在早稲田社会学会会員でない方で投稿をご希望の方は、上記の申込とあわせて入会申込書をお送りください（なお、本年度についてはPDFなどの形でE-mailにてご提出下さい。当面、推薦人の署名捺印は不要とします）。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会HPの「入会案内」をご覧ください。事務局までE-mailでお問い合わせください。

5. 2021年度研究助成の募集

これまで当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重し、研究活動の助成を行ってきました。この制度を継続し、今年度も次のように、会員各位の研究活動を助成いたします。

- ・助成対象:早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動
- ・助成額: 1件15万円程度を上限とする

助成を希望される方は事務局までE-mailでご連絡ください。件名を、「研究助成申請希望」として下さい。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5月17日(月)午前9時00分(事務局宛 E-mail のみ有効。郵送不可)です。

なお、募集は、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して2年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告(または学会誌投稿)により、その成果を報告していただくようお願いいたします。また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局にお問い合わせ下さい。

6. 第3回早稲田社会学会・三田社会学会合同研究例会（第42回早稲田社会学会研究例会）報告、および第43回例会について

第42回早稲田社会学会研究例会は、三田社会学会と合同で、「若手研究者交流会」と題して、以下のように開催されました。

日時：2020年12月12日（土）13時30分～16時30分

会場：ZOOMによるオンライン開催

話題提供者（敬称略）：

中村雄輝（早稲田大学国際教養学部講師）

「夢のある研究室—研究資料の管理と研究の進め方—」

鈴木弥香子（立教大学／日本学術振興会特別研究員PD）

「博士課程をサバイブする—留学から論文博士まで」

張龍龍（早稲田大学文学学術院助教）

「わたしの留学経験—早稲田での5年間」

本多真隆（明星大学人文学部助教）

「単著・博論・投稿論文」

コーディネーター：川副早央里（東洋大学）

研究例会報告

2020年度の研究例会は、もともと2020年5月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴って延期となり、このたびZOOMを使用してオンライン開催する運びとなった。今回の例会では、これまで通り三田社会学会との交流を深めることに加え、学生の学会出席者が少数に留まるといった反省や、学生や若手研究者が学内外でつながり気軽に相談し合える機会が少ない状況を踏まえ

て、「若手研究者交流会」と題して、若手研究者らの研究活動や生活などについて気軽に語り合い交流を深めることを目的とした。早稲田大学あるいは慶応義塾大学出身の若手研究者4名からそれぞれのテーマで話題提供していただき、その後は参加者も交えてラウンドテーブルのワークショップを行う形式をとった。オンライン開催ということもあってか、学会員以外の参加も多く、50名近くの参加があった。

話題提供者である中村氏は、若手は雇用が不安定で研究室の確保が容易ではないなか、自分にとって研究しやすい・したい場所を確保するよう努めてきたことや、日本とアメリカでの研究経験に基づき国によって研究の定義や方法に違いがあることなどを紹介した。続く鈴木氏は、博士後期課程での周囲から求められることと自分ができることの乖離に悩んだことや、オーストラリア留学の経験や帰国後の困難などを報告され、研究を続けるためには健康管理と周囲に頼ることが大切であると指摘した。三人目の張氏は、外国人留学生あるいは外国人若手研究者の観点から、研究テーマとの出会いから日本留学のきっかけ、そして博士論文の提出を経て現在の職に至る研究の歩みを報告した。そのなかで、アルバイトや研究職などキャリア形成において工夫した点なども紹介した。四人目の本多氏は、博士論文執筆の経験に基づき、単純に投稿論文の足し算では博士論文にならなかったこと、博士論文の書籍化においては編集者との出会いや外部評価、資金調達が重要であったことを報告し、キャリア形成においては先輩方の研究やキャリアパスの分析が有効であったことを紹介した。

後半のワークショップでは、ZOOMのブレイクアウトセッション機能を使って、各話題提供者のルームのほか「シニアの部屋」と「つぶやきの部屋」のルームを設け、参加者に自由に移動して議論や交流を深めていただいた。参加者からは「普段は聞くことができない情報やノウハウを聞くことができた」、「自分だけかなと思っていた困りごとでも共通していることを知り励まされた」、「オンライン開催ではあったが話題提供者や参加者と直接自由に話をするのができてよかった」などの感想が寄せられた。

4名が共有された経験や教訓は、多かれ少なかれ同世代研究者の多くが共感する内容だったのではないだろうか。今回の交流を通じて生まれたつながりや気づきが参加されたそれぞれの方の研究活動・生活の一助になれば幸いである。今後も、両学会の交流を深め、若手を含む多世代にとって有意義な研究企画を実現できるよう、研究活動委員会一同努力を続けていきたい。

(東洋大学 川副早央里)

第43回例会については、次号以後にお知らせいたします。

7. 入退会者のお知らせ

理事会において以下1名の入会が承認されました。(以下、敬称略)

2020年12月12日理事会 小林 信重(東北学院大学)

理事会において以下の2名の退会が承認されました。(以下、敬称略)

2020年12月12日理事会 庄司 武史(早稲田大学社会科学研究所)

2020年12月12日理事会 多田 治(一橋大学)

8. 学会費納入のお願い

今年度の学会費をお振り込みくださいますようお願い申し上げます。別途、郵便にて「郵便振替払込書」をお送り申し上げます。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

9. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

今般の状況下、事務局は通常通りの運営が困難となり、実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。昨年は、コロナ禍で、年度当初「郵便振替払込書」を郵送することができず、学会費の納入状況が大変低下しました。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上